

■ R6 年度 第 5 回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定委員会 議事録

○ 日 時 : R7 年 2 月 3 日 (月) 18 : 30 ~ 20 : 30

○ 場 所 : 香南市役所 6F 604・605

○ 出席者 (委員)

石筒委員長・石丸委員・小笠原委員・中道委員 (オンライン) ・門田委員・國常委員
高木委員・北委員・北山委員・上田委員・廣岡委員・森委員・江口委員・別府副委員長
(14 / 15) ※古川委員欠席

○ 出席者 (市行政)

濱田市長 ・ 三木教育長 ・ 企画財政課 (近藤補佐 ・ 小林係長 ・ 安藤氏)
地域支援課 (弘田課長) ・ 健康対策課 (伊藤課長) ・ 福祉事務所 (坂本所長)
商工観光課 (萩野課長・府川補佐) ・ 農林水産課 (小松課長) ・ 学校教育課 (小松課長)
住宅政策課 (浜田課長) ・ 情報政策課 (中島課長) ・ こども課 (猪原課長)

○ 傍聴者 … 1 人 (県職員)

1. 開 会

(事務局)

お時間になりましたので、ただいまから R6 年度第 5 回香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会を開催させていただきます。

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

開会に先立ちまして、委員のご出席について共有をさせていただきたいと思えます。

まず、中道委員におかれましては、オンラインで本日はご参加いただいています。

また、古川委員からは残念ながらご欠席とのご連絡をいただいておりますのでよろしくお願い致します。

本日の会は、香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会設置条例第 6 条第 2 項の規定に基づいて、半数以上の方にご出席をいただいておりますので、会議が成立いたしますことをご報告させていただきます。

それでは開会にあたりまして、濱田市長よりご挨拶申し上げます。

2. 市長挨拶

(市長)

皆様こんばんは。

今年もあっという間に 1 月も終わり、本日は 2 月になりましたが、夕方のお忙しい時間に、このように委員の皆様にはお集まりいただき、本当にありがたく、感謝申し上げます。

本日は、第 5 回ということで、今日で最後だと聞いております。

本日もお集まりいただいた皆様の顔を第 1 回目の会で見たとときに、今まで自分の中で、市であったり、県であったり、そういった様々な会議の中で、これだけ、若く、そして多様な方々が集まる会というのはあまり記憶になかったもので、非常に新鮮であり、そして、それぞれが新しい感覚、それぞれの分野のご見識をお持ちで、その経験等からご意見をたくさんいただいて、ここまでたどり着いていますが、今すごくほっとしているといえますか、すごく感謝をしているところです。

様々なことが全て叶うわけではありませんが、この策定委員会でいただいたご意見というものをできるだけ未来の子どもたち、そして、香南市の市民の皆様のためにしっかりと形にしていけるように、我々、

教育長もおりますし、副市長もおります。そして後ろには市の所属長もたくさんおりますので、皆でしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、集中して取り組んでいただくよう、お願いを申し上げます。ご挨拶をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。
それでは、ここからは議事に移らせていただきます。
まず、委員の皆様には1月24日に郵送やメールで本日の資料をお配りさせていただいております。また、修正された書類、差し替え分をメールで1月31日にお送りをさせていただきました。資料がない場合は、紙ベースになりますが、予備がございますので職員までお声がけください。

それでは、ここからの進行につきましては、石筒委員長にお渡しをさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

3. 議 事

(石筒委員長)

市長からもお話ありましたようにこの会は、第5回目となります。
今年度、皆様にご尽力いただいて、5回積み上げて参りました。
実質的に最終案の検討ということで、決を最後に取りたいと思っておりますが、それで特に問題がなければ、今年度に関しての開催は最後になるかと思っております。

本日は、この後、事務局より内容について説明させていただきます。
議事は2つございまして、1つは最終案のことについて、まず初めに、最終案について事務局よりご説明をいただいた、皆様と意見交換もしくは質疑応答という形でお話をいただければと思います。
そのあと、委員会として議決をしたいと思っております。
そのうえで、今後パブリックコメントがあるんですが、その進め方についても議決をさせていただきたいと思っております。
その後、2番目の議事としてアンケート調査に関する内容を事務局から共有させていただければと思います。

それでは議事の1つ目に入りたいと思っております。
第3期香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終案について事務局説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは説明をさせていただきます。
説明に関しましては、資料1から4までを活用し一括でご説明させていただきます。
また、事前に資料をお送りさせていただいていたこととお時間の都合もありますことから、少し割愛をさせていただきます、ご説明いたしますことをご了承ください。

それでは、資料1をご覧ください。
この資料は、前回、みなさまにご確認をいただいて、一定ご承認をいただきました資料に写真やKPIの数字等を記入した本戦略の最終案となります。

まず、表紙にはタイトルを記載しています。
前回の策定委員会におきまして、様々なご意見をいただき、その後検討を重ね、みなさまからもご意見をいただき、タイトルとサブタイトルを整理させていただきました。
タイトルにおいては、漢字ばかりで固いのではないかとのご意見もいただきましたが、サブタイトルを

つけることで中和されるとのご意見もいただきましたこと等を含め、市長・副市長・教育長を交え、お話をさせていただき、最終的に、「香南市未来戦略」という名称にさせていただきました。

当市を含め、県下各市町村の総合戦略では、ほぼ、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」という名称でまとめておられるケースが多かったように記憶していますが、今回、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」という名称ではなく、「新たな名称」で、第3期の総合戦略をお示しできることは、今回の策定委員の皆様と協議が図れたからこそではないかと感じています。

続いて、中身ですが、3ページと4ページの右上のグラフをご確認ください。

こちらは、前回の策定委員会で「11月にR5年分のデータが出るので更新します」とお伝えしていた部分になります。

その後、1月中旬に更新されましたことから、資料の修正を行い、今回、皆様に再度資料をお示した形となります。

このうち、R5年度の出生数ですが、これは、暦年の数字で、R4年1月から12月の数字となりますが、結果として、194人という事で、とうとう200人を割ってしまいました。

また、婚姻数もR4年は持ち直してきたと感じておりましたが、R5年は再度減少していることから、今後も出生数は減少するのではないかと感じているところです。

次に、4ページです。

左上の「本市の目指すべき姿」というところをご確認ください。

前回の会と大きく文面は変えておりませんが、確認を込めて、一度共有させていただきます。

全国的に進展する人口減少と少子高齢化に歯止めをかけるため、国は平成26年に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したことに伴い、本市も平成27年度に「香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」という。）」を策定し、人口減少を抑制し、将来にわたって活力のある地域社会を維持するために、「香南市産業振興計画」等と連携し、これまで約10年間、様々な取り組みを進めてきました。

第3期総合戦略においても、人口減少抑制のための施策は継続して進めていきますが、今後、厳しさが増すことが見込まれる財政状況や人的資源の確保にも限りがあること等を考えると、これからの香南市にとって真に必要な施策は何か、重きを置くべき事業は何かについて、その方向性を明らかにすることが必要になります。

本市のR42年（2060年）の総人口の推計は、約24,000人で、R5年度末の人口から、2割以上が減少すると見込まれていることを鑑みると、人口が大きく減少する中であっても、誰もが、安心して暮らし、働き、子どもを育てることができるまちこそが目指すべき姿であると考えます。

そのためには、少子高齢化を抑制するための取り組みを本市の強みや特性を生かして進めることで、人口構造を少しでも若返らせるよう努めるとともに、人口減少が避けられないという前提に立った行財政運営を行い、将来にわたって持続可能なまちづくりを実現するための取り組み、つまり、人口減少に備えるための取り組みも着実に進めることが必須となります。

以上のことから、これからも住み続けてもらえるまちづくりや進学、就職等で一旦は市外・県外に出たとしても「やっぱり香南市がえい」と帰って来てくれるまちづくりにつなげていけるよう、第3期香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略にあたる「香南市未来戦略（通称：未来戦略）」を策定します。

としています。

ここが、当戦略の大きな軸になると考えています。

次に、4ページの右上のグラフをご確認ください。

こちらは、H27年度に作成された香南市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンに示されている今後の人口推計の予測になります。

前回の策定委員会ででもお話をさせていただきましたが、本年度、当課の方で、新たな人口推計の委託業務を行っており、グラフの差し替えを予定しておりましたが、少し時間を要しており、完成したものを

今日現在、掲載できない状況です。

続いて、5 ページをお願いします。

こちらのページですが、前回は、大きな柱 3 つをお示ししておりましたが、前回の策定委員会で、「こどもまんなか」を左に記載して、① というような形で番号を振っておりましたが、順番といたしますか、「こどもまんなか」が 1 番のように見えるとのご指摘もいただきましたことから、ナンバリングを除けたことに加え、「やっぱり香南市がえい」の項目が今回の肝ではないかというご意見もありましたので、左に持ってきています。

また、デジタルの活用について、改めてご意見がありましたことから、当戦略で示す位置づけとして、下段に「デジタルの力を…」という部分を追加しています。

次に、6 ページからは、前回お示した各柱の数値目標や具体的な施策等の R9 年度の目標値等を整えました。

また、各項目に紐づく写真や URL、QR コード等を掲載していますのでご確認ください。

なお、6 ページ以降の各数値の根拠や R7 年度に取り組む各事業内容等につきましては、資料 2 の「香南市未来戦略 数値目標及び重要業績評価指標 (KPI) 評価書」に詳しく記載しています。

ここで、資料 2 の見方については、事前に「資料の見方」という資料もお送りしておりましたので、ご理解はいただいていると認識をしておりますが、1 点、共有事項として説明をさせていただきます。

資料 2 の 4 ページ上段をご確認ください。

「社会増減数」の R5 年度の実績や今後目標値があり、その目標設定の根拠等を目標値の下の段に記載しています。

その下の段、ブルーのところに PDCA とありますが、今回は、計画の開始時期なので、「P (プラン)」のみ、「R7 年度に取り組む内容や方向性」を記載しています。

下の「D (ドゥ)」「C (チェック)」「A (アクション)」の部分は、来年度以降、みなさまと確認をしていく際に記入されていく部分となりますのでご了承ください。

このような作りで、各事業の整理をすべて行っておりますので、各事業ともにご確認をお願いいたします。

以上が、資料 2 の今回整理された部分になります。

説明が長くなり申し訳ありませんが、続けて、R7 年度からの新たな取り組みについて共有いたします。資料 3 をご確認ください。

こちらは、これまでの策定委員会等でいただきましたご意見等を参考に、当戦略に結びつく事業の中で、R7 年度に拡充や新規として取り組む事業をお示ししています。

次年度予算の確定は、3 月の当市議会により承認され決定いたしますので、現段階では「案」としてご確認をお願いいたします。

それでは、抜粋して紹介をさせていただきます

まず、左上の「市単独の移住交流イベントを開催します」ということで、市単独の「移住交流イベント」を R7 年度に初めて開催します。

34 才の女性をメインターゲットとして、秋頃に大阪で取り組む予定です。

また、上から 3 つ目の「こうちで恋しよ!! マッチング」への登録料を助成します!!」ということで、県のマッチングサイトへの登録料の助成を行い、少しでも結婚に結びつけ、「望まれる出産」につなげていくために取り組みを実施します。

なお、この2つの事業は、第1回目の策定委員会時にもお話をさせていただきましたが、高知県が人口減少対策に向けた交付金を今年度より構えておりまして、その交付金を活用する取組としてご紹介をさせていただきました。

子育ての支援といたしましては、左下の方にありますが、児童クラブの預かり時間を現状の18時までから、18:30までとする取り組みや、右上にあります通り、にこなんの土曜日の預かりを、毎週行うよう拡充いたします。

デジタルツールの活用として、左欄の上から2つ目ですが、これは「まちづくり」の観点で、皆さまともかなり議論を交わしたと思いますが、必要な時につながれる関係を新しく作り始める取り組みとして、LINEを活用した町内会の在り方の実証実験に取り組む予定となっています。

ご紹介はここまでといたしますが、詳しい内容等についての質問等がございましたら、質疑応答のお時間でご確認をお願いいたします。

最後に、資料4をご確認ください。
策定に向けた今後のスケジュールについて共有させていただきます。

冒頭、委員長よりお話がありました通り、のちほど、本戦略案について、まず、ご承認をいただけたら、

2月10日より、1か月間、パブリックコメントを実施する予定です。

3月10日まで行い、それまでにいただきましたご意見等について、本来であれば、皆様と協議を再度行い、整理を進めるべきではありますが、本年度の策定を目指す時間軸の中で、お構いなければ、委員長と我々事務局に、その整理をお任せいただけないかと考えています。

そのうえで、皆様に、協議内容や修正された案を共有させていただきたいと思います。

その後になります、パブリックコメントとその整理を以て、実行委員会として取りまとめた「香南市未来戦略」を市長に答申し、3月末までに策定という流れを予定しています。

また、パブリックコメントの実施期間には、当市3月議会も開会いたしますが、その前段の2月19日には、皆様と検討してきたこの戦略（案）の共有を市議会の議員さんたちにもさせていただければと考えています。

長くなりましたが、戦略案の説明と新事業等のご紹介、今後のスケジュールについての説明を終わりにいたします。

（石筒委員長）

ありがとうございました。

それではこの後、質疑応答や感想、それから質疑応答も含めての時間といたします。

最後になりますので、順番にマイクまわしながら、いろいろコメントでもいいですし、質問等もいただければ、その都度、事務局の方で回答しようと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

（石丸委員）

今まで長い間この戦略会議に取り組んできた中で、今後香南市につきましても、やはり県下でも人口の増えつつある町ということで、今後、住民も行政も一緒になって、力を合わせて築きあげていくというような方向にしていっていいと思いますし、微力ではありますが、ご協力をさせていただきたいというふうに思っています。

(小笠原委員)

今回、R7 年度より取り組む新たな事業等も見せていただきましたが、すごくわかりやすいなど。パット見て、すごく理解がしやすい。

市民がこれは活用できるかなと感じられることが書かれているなど感じております。

人口減少の部分は、本日の資料で説明がありましたが、本当に減ることを実感しました。

少しでも、この想定よりも上げていけるようなことを考えていく必要があることを改めて感じたところ。

(國常委員)

資料 3 を確認させていただいた。

本当にこの場、会議で出たことがしっかり入っているなどというところで、デジタル町内会とか放課後児童クラブの預かる時間の延長等、私も住民として、どんどん住みやすくなっていくというのを、これを見ながら感じています。

(門田委員)

非常に今まで話してきた内容が反映されている資料になっていると思いますので、本当にお疲れ様でございました。

この戦略の資料作成だけでは終わらないように、僕らもこれをつくるのに参画させてもらったので、その動きをしっかりと見守りながら、できることがあれば協力させてもらって、しっかり PDCA じゃないですけど、目標がちゃんと進んでいるか、進んでないかっていうのは、僕も 1 つ責任として、しっかり確認をして、意見も出していただけたらと思いますし、本当にこれが進んでいけば、非常に良いものになっていくと思います。

昨日回覧版で広報等が届いていまして、こうなん市議会だよりを確認をすると、香南市の子どもよさこいの予算がかなり増えたということで、衣装を新しくせないかんというような記事がありました。

香南市の子どもよさこいというのは、本当に香南市の子どもが踊っているイベントです。

そこに対して、内訳はわかりませんが、充てていく姿勢といいますか、本当に必要なものに必要な予算をかけられるようにしなければ、幾ら計画や戦略があっても実行ができないっていうのはあると思いますので、今日は議員の方はいらっしゃらないと思うんですけども、しっかりこの内容を議会に出してですね、本当に必要なものを、必要なお金をしっかり香南市にまわしていただける、使わせてもらえるような取り組みも本当に大事になってくると思います。

また、例えば、議会で質問等があれば、この会議のメンバーで、誰が行ける人がおったらですね、傍聴等に行く等、そういうのも大事になってくると思うので、計画と実際の予算というのは本当に大事だと思っていますので、これをぜひ実行していきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願いします。

(高木委員)

自分たちが話し合ってきたことがすごく反映されているなどと思いました。

資料 3 等にもありましたが、にこなんの運営の方は大変だと思いますけど、市民としては毎週土曜日に開設していただくということはすごくありがたいなと思います。

また、私は今赤岡町に住んでいるので、人口減少のグラフを見たときに、自分が 60 歳ぐらいになったときに、すごく現実的な数字を目の前にしたら、自分もこれから赤岡の町を活性化できるようにしていかないといけないんだなということもすごく感じました。

引き続きよろしくお願いします。

(北委員)

本当に今回この会に参加させていただいて、最初に市長のご挨拶にありました通り、本当に多様な皆さんで、そして非常に若い皆様方が委員として参加されていることが素晴らしいというふうに思いました。その意見を十分くみ取って、市の職員の皆様方は本当に大変だったと思いますが、非常にわかりやすくて、見やすいまとめになったというふうに感じています。

あとはいかにスピード感を持って実行するかということで、人口のグラフを先ほど見せていただきましたけれど、それが少しでもなだらかにというか、事業に取り組むことで、右肩下がりにならないような

形になっていくのではないかと考えて期待をしております。

香南市の企業の一員として、香南市に貢献できることは積極的にやっていきたいというふうに思っております。

今後ともよろしく願いいたします。

（上田委員）

私も皆さんと一緒になんですけれども、将来の人口推計を見たときに、こんなふうになるんだっていうことをより実感をして、それに何ができるだろうかっていうふうに感じました。

この戦略を身のあるものとして運営をしていくか、それを振り返っていくかっていうところなんだろうなっていうのを感じているところです。

香南市の社会福祉協議会の職員という立場でありますので、地域福祉の業務に携わることが中心になってきているんですが、直接委託を受ける事業の中にもあるんですが、この評価とか PDCA ですよ、このところをしっかりと回すっていうのを一人一人の職員も含めて、ちゃんと考えていかなきゃいけないなというか、目標値だけじゃなく、それをいかに生きたものにするかっていうところで、市の職員の皆さんももちろんご存じだと思うんですけど、主管課の担当の方だけじゃなくって、横の連携っていうところも含めて、この戦略をしっかりと身のあるものにしていくっていうところを、社協としても一緒に頑張っていかなくちゃいけないなって感じたところです。

（事務局）

上田委員の方から、前回、まちづくり自治会というものを香南市として作っていくという指数について、それができたことによってどういったところに影響というか、その KPI も入れてみてはどうかというご意見をいただきました。

先ほど説明がぬかっておりましたが、資料 2 の中に、「民生委員児童委員の充足率」と「いきいきクラブ実施地区数」という項目を新たに追加させてもらっています。

（北山委員）

今まで皆さんで話し合ってきたことが入っているんだろうなと思いは見えていたんですが、一方で、生活していると、もっと気づく部分といいますか、違う視点とかがどんどん出てくるわけで、最近だと高速道路が間もなく空港まで繋がることになります。

その影響なのかわかりませんが、私の家から職場に行くまでの間の国道のコンビニがなくなりました。高速道路の関係でお客さんがおらんくを見込んでいるからなのかわからないですが、不便になったなと感じています。

今までは高速がなかったから、国道を、野市町を通るということでしたが、これから野市町は、香南市を含めてですが、「通過するまち」になるんだなっていうことを改めて認識をしまして、香南市に住んでいる人の快適性とか安心を考えることはもちろんなんですけど、一方で、よその人たちが買い物にきたりとか、そういうようなことの需要もすごく必要で、いろいろなお店だったりとか成り立っていく上ではすごく大事なのかなと思っていて、そういったときに、やっぱり選んでもらえる店だったりとか、面白い、楽しいことがあるからここに住もうかなっていうような、何かこう、面白さとか魅力とか、そういう楽しいことをやっていることなんかも、もっと取り上げていくようなこともすごく大事なのかなと思いました。

また、自分の話をして申し訳ないんですが、赤岡町で毎週土曜日に、有機野菜のマルシェに最近取り組み始めていて、芸西村からこられた方が、高知市のオーガニックマーケットまでいなくても、ここで有機野菜が買えることが嬉しいと言ってくれたんですね。

なんかそういう、「わざわざ高知市まで行かなくても、ここにある」みたいなものがあることってもしかしたら、結構大事なのかなとも思ったりしていて、特別栽培米とかのこともありますけど、すごくいい取り組みだと思えますし、香南市が選んでもらえるようなまちにしていきたいなと思ったりしています。

(廣岡委員)

一般市民に近い私から見てもすごいわかりやすくまとめられていると思います。
新たな取り組みのところで児童クラブのところですけども、18時半まで延長されるということで利用している身としては嬉しいところです。
でも支援員の方が不足しているっていうのはこれまでもよく聞いていたので、その負担的に大丈夫か心配になりました。

(猪原こども課長)

委員の皆様からこども課が関係しております児童クラブのことであったり、にこなんのことであったりと、様々なご意見をいただきましてありがとうございます。
今回児童クラブの預かり時間の延長をさせていただきますが、児童クラブの支援員さんともしっかり話をさせていただいて、その上で実施ができるという判断に至りました。
支援員不足の点についてご心配をおかけしておりますけれども、この点については十分整理をさせていただいております。
どうぞまたこれからもよろしくお願いいたします。

(森委員)

皆さんお話をさせていただいたようなところでは同じと思っております。
その中で将来像をはっきりした形で、「誰もが安心して暮らし、働く子どもを育てることができるまち」ということをあげられていまして、それに向けて、どう対応していくかというところをきちっと組み立ててやられているように思いますので、それに対して香南市さんだけじゃなくて、住民の方たちとやはり本当に一体感を持って進めていくことと、また、私ども地域の金融機関として、本当にできることはしっかりと行っていきたいと思いますので、まだそういう機会があれば、ぜひ協力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(江口委員)

1つ質問をさせていただきます。
R7年度の新規・拡充事業ということで書かれておられますが、これがあんまり効果が出ないとか、この戦略に基づいて、もうちょっと追加をしていろいろやらなきゃいかんのかなというようなご意見が委員の皆さんから見て、足りないんじゃないかというお話になったときには、R8年度以降も改めていく、新規で行うということはある得るという前提でよろしいですか。

(別府副市長 ※別府副委員長)

今時点で予算化していくと整理をしているものをあげています。
当然、いろいろ事業を進めていく中で、新しくこういう事業があるんじゃないかということはあると思います。
今回議論をいただいた中で事業化ができてないものもありますので、当然今後、拡充等を検討していきたいというふうに思います。

(江口委員)

是非そうしていただきたいと思えます。
皆さんから見てまだ足りないんじゃないかというようなご意見があれば、R8年度以降もやられるということで。
なぜこういう話をさせていただくかということ、県も似たような戦略がございます。
高知県の場合は、足りないものがあると思うと、毎年度追加で新たなことをどんどんやってという流れがございます。
ただし、なかなか財政上厳しいというところもあろうかという事もあります。
市町村独自でやれるように、さっき事務局より話が出ましたけど県も交付金を構えて、3分の2のお金が出る交付金を構えています。
3分の1は市町村の負担となってしまいますが、ぜひ活用いただきたいと思えます。

実は、県下 34 市町村の今後の使い道が整理をされていますが、一番この予算が余っているのが香南市です。もっとどんどんやってくれたらというのが、実は県庁の思いでもあります。

また、先週の金曜日に県の地域本部の方で会合がございました。

北委員さんや市長も出られた会ですが、その中で県の元気な未来創生総合戦略の中で出た意見が 2 つほどあります。

1 つは「子どものキャリア教育みたいなものをもっとやったほうがいいのではないか」というところがあります。

市のこの戦略の中に、「やっぱり香南市がえい」ですとか「こどもまんなか」とありますが、子どもに対してやっぱり地元はいいよねと思えるようなことやったらというご意見があったということで紹介をさせていただきます。

もう 1 つ似たような話ですが、高知大学にこられた方、県外の方にも高知県に住んで欲しいなというものもあるんですけども、やっぱり県外から来られた方は、例えば、大学卒業後は地元に戻ってしまっているということで、そういう中で、県外に出て行ってしまった香南市の人たちと繋がるようなことをやった方がいいんじゃないかというようなご意見もありました。

資料 3 の一番右下のところに奨学金の助成の対象者を拡充しますというのがあります。

香南市では、市内に暮らす方で、市内の企業に勤めている方に奨学金の助成がありますが、何と R7 年度からは市外で就労される方も対象にされるということで、香南市外で働く人でも香南市に住んでくれればそういう助成もあるので、是非、そういうのも香南市外に出て行かれた方に向けて、紹介をしていく等して、やっぱり香南市がえいという出身者の方もいるのかなというところもございまして、そういうような方々に何かアプローチするようなことを今後も考えていくのはどうかと感じています。

(中道委員)

委員の皆さんからもありました通り、非常にわかりやすく、今までご説明いただいた中で一番まとまってわかりやすい資料ではないかなというふうに思いました。

その中で、北委員からのお話がありましたが、人口減少の右肩下がりにならないようにすることが大事だというふうにお話がありました。

この戦略で、1 つ 1 つですね、毎年もしくは各四半期だとか半期ごとに見直していき、実効あるものに改善すべきなのかっていうところが大事になってくると感じています。

デジタルという観点からコメントをさせていただきます。

1 点目です。

資料 1 の 5 ページにあります、全体の今後の将来像ということで、やっぱり香南市がえい、こどもまんなか香南市の実現、そして魅力ある産業の活性化と新たなチャレンジ支援推進を示していただきました。一番下に「デジタルの力を積極的に導入して」といったものがありましたけど、非常に重要なところだと思います。

ぜひ、右側の緑色の部分だけではなくて、各施策についてももう少しデジタルを使って、新しいアイデア等、そういったものへのチャレンジにつなげていけるように取り組んでいく必要があると思えました。

その上で、資料 2 のご説明をいただきました。

これから D・C・A を具体的に取り組むというふうに認識していますが、ぜひ今後 D・C・A においてもデジタルの取り組みを実際どれぐらい行ったのか、まだできなかった場合はどういうところが課題なのか、そういう各施策において続けるということが大事ななというふうに思っています。

2 点目が資料 3 についてです。

右上から 3 番目の「デジタル技術活用の促進をあと押し！」とありますが、非常に大事な施策なのではないかと思いました。

香南市としてデジタルをより進めていく事業者の支援を行うという決意かなと感じました。

その上で、県であったり、また省庁においてもですね、当然、デジタルに関する支援というものがございまして。

ご存じかもしれませんが、高知県ですとデジタル技術活性化促進補助金、独立行政法人の中小機構においては、IT 推進についてのアドバイス等の支援も行っています。

ぜひ、市独自としての支援に加え、県、省庁の支援を複合的に情報提供する等、より事業者への DX 推進ということは進められるかと思いますので、そういった情報というのを集めて実施していただきたいのが印象になります。

（別府委員）

皆さんより本当にありがたい発言をいただきました。ありがとうございます。

先ほどよりいろいろなご意見をいただき、また、交付金の話もありました。

県の交付金ですが、香南市は、「市の魅力を高めてそれで人を呼び込んでくる」という部分で考えていますが、魅力を高める部分に県の交付金が対象にならないとかいう部分があって、そこはまたじっくり江口委員と協議させていただいて、そのうえで交付金を充てていただきたいなというふうに思っております。

また、江口委員よりキャリア教育というところもありました。

実は、これまでの石筒委員長との協議の中で、教育の部分等も踏み込んでいけたらという話もありました。

今回はそこについてあまり踏み込めていない形になっておりますが、そういう部分も教育長、教育委員会の方とも協議をしながら考えていきたいと思っております。

そもそも、子どもの時から「やっぱり香南市にずっと住みたい」、或いは、香南市外へ出て行ってもやっぱり戻ってきてもらえるような仕掛けも良いのかなというふうに思っています。

北山委員からは呼び込んでくるといいますか、そういう仕掛けも必要ではないかという意見もありました。

そういう部分も、香南市産業振興計画等と連携して考えていかないかと思っております。

（石筒委員長）

ありがとうございました。

委員の皆様からいろいろコメントとか質問等いただきました。

私も最後にコメントをしたいと思います。

実は KPI を見ていただくと、人口の資料がありましたけれども、人口は将来的に減少していく中で、どちらかという各施策の数値はかなりチャレンジングで、横ばい若しくは増加をしていくという数値がかなりあります。

この時点で減少を目標にするっていうことはないと思いますが、3 年間という短い期間ではありながら、かなりそれぞれの施策に関して取り組みを強化していく必要があるという事になります。

もちろん DX 関係はかなり数字が上がっていると思っておりますので、今までのままではなくて、それも進めていくという数値も加味しながらの形になっているだろうと思っております。

市の担当者の皆さんがこの数値を持って来ようとしているというのはいろいろ理由があると思うんですが、1 つは、先ほどの 2060 年の人口を見たときに、全体で見るとずっと減少していくと思うのですが、やっぱりこの 5 年、10 年というのが 1 つの正念場で、高知県は課題先進県とよく言われていますけども、その意味で、本当にこの後一気に人口減少していく中で、今やるべきことというのはかなりあると思います。

その中の 3 年といいますか、もうこの出発点、ここでやっぱり手をつけるかつかないか、やるかやらないかというのはその後の影響がより大きく出てくるんじゃないかなというふうに感じています。

その意味で数値もそういうふうになっていますし、委員の皆さんには、また来年度以降、この数値を検証していくというところはあるんですが、どちらかという中身を肌感覚で見て、「ちょっと違うんじゃないか」と先ほどいろいろ施策のリストありましたけども、足りないよねとかです、いろいろ見て

って、こういうところはもっと修正したほうがいいんじゃないかと、

「戦略を作って終わり」というよりはむしろその後の、「各年度の数値をどう修正していくか」で考えてみると、ちょっと違うなとかそういう違和感なんかをやっぱり皆さんの目線を出していただくことがものすごく大事だなというふうにも思います。

一旦は、ここでこういった形の数値を聞きながら、もちろん市役所の方にも、皆さんにも取り組んでいただくんですけども、これは行政職員のための戦略ではなくて市民全体で動くというところがありますので、ここをどういうふうに、いろんな中身を共有しながら、実際に変化をさせて、本当に香南市の未来のための戦略としていくかというのがポイントではないかなというふうに感じています。

本日に至るまで回数も多く、大半は本日の口の字型の会議ではなく、皆さんからいろいろな意見を出していただくという場でした。

おそらく来年度以降もそういったワークショップ等の機会を設けながら確認していくという作業が必要になってくるだろうと思います。

結果だけ聞いて「はい」というパターンではなくて、どちらかという、もう1回中身をきちんと見ていこうという形にできればなというふうにも思います。

一旦今回のこの最終案に関して、資料1の最終案と資料2のKPIについて、皆さんにご承認をしていただくという事になります。

その後で、パブリックコメントとそれから議会もあると思いますので、そこでどんな形で、特にパブリックコメントはいろんなご意見があると思いますので、その整理の仕方は、先ほど私、委員長と事務局に一任をとりましたけれども、質問の内容によって、その分野についてわかる委員さんにも相談にのっていただくような形も含めながら、時間軸的に、このような形の会を設けることにはなりませんので、そういった意味で委員長含め、事務局に一任するという形でご承認いただけるかという2点に関して、皆様にお伺いをしたいと思います。

まず1つ目ですが、資料1及び資料2の戦略案とKPI（案）に関して、ご承認いただける方は挙手をお願いいたします。

※ 参加委員 全員 挙手 ▶ 承認

もう1つのパブリックコメントをした後に、いろいろ整理、確認をしていくような作業があると思いますが、基本的には、先ほど言いました、私と事務局の方に一任いただき、相談をさせていただくようなこともあるかとは思いますが、その進め方についてご承認いただける方は挙手をお願いいたします。

※ 参加委員 全員 挙手 ▶ 承認

ありがとうございました。

私だけではわからないなっていうこともあるかと思しますので、その場合は皆さんに相談をさせていただくこともあるかとは思いますが、よろしくをお願いいたします。

それでは、議事①は以上となります。

※ 10分休憩

(石筒委員長)

それでは再開させていただきます。

議事の2つ目になりますが、魅力ある香南市をつくるアンケートの調査結果の速報値がありますので、これについて説明をしていただきます。

この取り組みは、R2年度から、小学校6年生、中学3年生、それから18歳と3つの世代を対象に行ってきた調査になります。

本日は、今年度の取り組みの調査の報告になりますので事務局よりお願いいたします。

(事務局)

香南市企画財政課の安藤と申します。

お手元の資料5、表紙に「魅力ある香南市をつくるアンケート調査結果(速報)」と印刷したものをご確認ください。

このアンケート調査については、香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、「香南市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」で示している香南市が目指すべき人口の将来展望、2060年に人口30,800人を実現するために、産業振興計画をはじめ各種計画と横断的に連携し、必要な施策を取りまとめた計画となっております。

平成27年度から取り組みを進めているこの総合戦略は、R2年度から第2期がスタートしております。その中で、「次世代を担う若者に香南市の魅力を伝える取り組みの強化」を、新たに優先的に取り組む施策として追加しており、そのひとつとして、子ども・若者向けの総合戦略「こうなんの未来」を作成し、市内の小学6年生・中学3年生・18才を対象に配布しまして、総合戦略における市の取り組み等を伝えると同時に、アンケート調査を実施しており、現在までに、R2年からR6年の5年間の回答データが蓄積できました。

お手元の資料は、この子どもたちへのアンケートの回答についての結果の速報と、簡単な分析をご報告させていただくものです。

はじめに、この5年間のアンケート調査の回収率についてご説明いたします。

お手元に本日追加配布した資料をご覧ください。

5年間を総合した最終的な回答割合の平均は50.2%となっております。

また、各世代の回答割合は、小学6年生が75.1%、中学3年生が62.4%、18才が19%となっております。この回答割合の差は、おそらく回収方法の違いによるものでして、学校での回収をいただいている小中学生と違い、郵送にて各個人へ依頼している18歳については、回答を促す圧力が弱いためと考えられます。

なお、18歳に対しては、アンケート調査を依頼した約1か月後に、ハガキにて再度回答依頼を行っております。

また、R6年度につきましては、R5年度まで学校での回収に限っていた小中学生についても、ウェブ回答を可能としたのですが、

その影響として、以下の2点がみられます。

1点目は、小学6年生の回答割合の低下。

ウェブでの回答が可能になったため、これまでのように、各学校で回収いただいていた先生方が回収状況を把握できなくなったため、回答割合が下がったとみられます。

アンケートは匿名回答ですが、R5年度までは、実際に回答を預かる先生が、どの程度回答されているのか把握できるため、提出を促すアナウンスをいただけたと思うのですが、R6年度ではウェブ回答が可能となったため、生徒が「ウェブで提出しました」と言えばそれ以上追えなくなってしまったことが主な原因だと考えております。

2点目は、中学3年生の回答割合の増加。

こちらは、同日に同一中学校から数十の複数回答がされたことが何度も見られたことから、おそらく授業等で本アンケートの回答がされたと思われます。

ご存じのように、現在は学生ひとりひとりにPCが持たされていますので、授業等でウェブでの回答を指導いただくことにより、回答割合が上昇したとみられます。

このような要因も加味して、引き続き、より精度の高い分析の実施を進めてまいります。

本日は速報版ということで、分析というには少々表面的な内容にはなりますが、ご参考ください。

また、併せて、資料6としまして、R6年度の回答結果を網羅した資料も添付しておりますので、こち

らも併せてご参考ください。

それでは、資料5の1ページをお開きください。

アンケートの設問は全部で31問ありますが、今回は主な設問をピックアップしております。

まずは問7、「お住いの地域(町)は住みやすいですか」について。

「はい」「いいえ」「わからない」で回答してもらっていますが、5年間を通して、全世代「はい」の回答が60%を超えております。

その具体的な理由をAからEに分類し、世代別に年代ごとのグラフにしたものが真ん中と左になります。

なお、分類は、

A：地域交流、人間関係に関すること

B：自然環境・食べ物に関すること

C：交通の便、道路状況に関すること

D：商業施設・遊び場（公園等）に関すること

E：その他 となっております。

真ん中のグラフをご覧ください。

赤文字の注釈①にありますが、「はい」の回答では、各年代とも、住みやすさの理由として「A：地域交流」「B：自然環境」「C：自然環境・食べ物に関すること」「D：商業施設・遊び場」の回答が多くなっています。

また、「はい」の中でも18歳に注目すると、赤文字の注釈④のとおり、「D：商業施設・遊び場に関すること」に住みやすさを感じている割合が多いことが見て取れます。

また「いいえ」については、赤文字の注釈②のとおり、「C：自然環境・食べ物に関すること」「D：商業施設・遊び場」が大部分を占めていますが、赤文字の注釈③のように、特に18歳では、その中でも「C：自然環境・食べ物に関すること」の割合が大きい傾向があります。

考察として、一見③と④は相反しているように見えますが、地域別でみると、その理由が見えてくるかもしれません。2ページから7ページは具体的な意見と、回答者の居住地域を記載していますので、ご参考ください。一見すると、特定の地域だけにかたよった意見ではなさそうです。

いずれにせよ、18歳では「住みやすさ」の指標として「交通の便」を重視する傾向があり、これは通学や通勤等で、行動範囲が拡大しているためと考えられます。

続いて、8ページをお開きください。

問10「香南市に魅力ある文化や好きな祭りはありますか」という設問です。

結果として、すべての世代と年度に共通して、「はい」という答える割合が「いいえ」を大きく上回っています。

子どもたちの多くが、香南市の文化や祭りに魅力を感じています。

特に祭りについて、5年間の回答結果を集計したものが、右下の一覧になります。

当然ながら、地元の祭りをあげる子どもが多かったのですが、複数回答ということもあり、地元の祭りと併せて、みなこい祭りを上げるケースが非常に多く、カウント数も全体で最も多い263件となっています。

続いて、9ページをご覧ください。

左半分が、問12「香南市の農業・林業・水産業は魅力的だと思いますか」についての回答結果になります。

「はい」「いいえ」「わからない」で答えています。

回答をグラフ化していますが、そこを結果①～③というくくりで囲っております。

結果①、「はい」の回答した子どもを年度と世代で分けたものですが、各世代・各年度に共通した傾向として、「はい」の割合が「いいえ・わからない」の割合を上回っていて、子どもたちの過半数、具体的には「50～70%」は、香南市の農業・林業・水産業に魅力を感じています。

また、結果②のとおり、「わからない」の割合が「はい」に次いで多くなっていて、「香南市の農業・林業・水産業」についてよく理解できていない子どもたちも、一定数（約20～30%）存在していることを示しています。

なお、18歳においては、結果③のとおり、他の世代と比較して「はい」の割合が約10%低く、一方で「わからない」の割合は約10%高くなっています。

全体の分析としては、子どもたちの大半は香南市の農業・林業・水産業が魅力的だと感じている一方で、

結果②のとおり、今後も一定数の子どもたちに対してその魅力を伝えていく余地が残っていることがわかります。

あわせて、18歳の回答割合については、結果③のような特徴が表れていて、特に18歳までの成長期間をターゲットとして、その魅力を伝えていくことが効果的だと考えられます。

次に、右半分、問13「香南市は魅力的な働く場所があると思いますか」についての回答結果です。

問12と同様に、回答をグラフ化して、結果①～②でくくって囲っています。

結果①のとおり、小学6年生と中学3年生の回答は、はい>わからない>いいえの順番で多いですが、「はい」と「わからない」の割合はどちらも約35～50%と拮抗していて、「香南市の働く場所についてよくわかっていない」子どもが一定数存在していることがわかります。

また、結果②のとおり、18歳においては、他の世代と比べて「はい」の割合が10～20%低く、その一方で、「いいえ」と「わからない」の割合はそれぞれ10%程度高くなっています。

このことから、子どもたちの概ね半数程度は、香南市に魅力的な働く場所があると感じている一方で、ほぼ同数程度の子どもたちについては、よくわかっていないことがわかります。

また、小学6年生と中学3年生の回答結果に、それほど大きな違いは確認できない一方で、18歳の回答割合には結果②のような特徴が表れています。

これは、「働く場所」に関する子どもたちの意識が、中学3年生から18才の成長期間において、大きく変化していることの表れと考えられます。

18歳にもなれば、働くということについて、より現実的な選択肢を想定し始める時期ですので、これは当然で、したがって、中学3年生から18才の成長期間までをターゲットとして、香南市の「働く場所」に関する魅力を伝えることが効果的であると考えられます。

続いて、10ページをご覧ください。

左半分が、問14 企業への支援、商店街の活性化等、商工業への取り組みは充実していると思いますか」についての回答結果になります。

「はい」「いいえ」「わからない」で答えています。

回答をグラフ化していますが、そこを結果①～②というくくりで囲ってあります。

結果①、各世代・各年度に共通した傾向として、「わからない」の割合が最大であり、「商工業への取り組みについてよくわかっていない」子どもたちが約半数を占めていることが分かります。

また、結果②のとおり、小学6年生・中学3年生では「はい」の回答が「いいえ」よりも多い。一方で、18才では概ね「いいえ」と「はい」の割合が同程度です。

このことから、子どもたちの約半数は、企業への支援、商店街の活性化等商工業への取り組みについてよくわかっていないことが分かります。

また、18才の回答割合に関する結果②の特徴は、中学3年生から18才の成長期間において、「はい」の割合が減少し、逆に「いいえ」の割合が増加する傾向で子どもたちの意識に変化が生じていることの表れだと考えられます。

したがって、中学3年生から18才の成長期間までをターゲットとして、「企業への支援、商店街の活性化等、商工業への取り組み」に関する情報を伝えることが効果的であると考えられます。

次に、右半分、問15「香南市の観光は魅力的だと思いますか」についての回答結果です。

問14と同様に、回答をグラフ化して、結果①～②でくくって囲っています。

結果①のとおり、各世代・各年度に共通した傾向として、「はい」の割合が「いいえ」・「わからない」の割合を大きく上回っており、子どもたちの多くは香南市の観光に魅力を感じていると言えます。

また、結果②のとおり、世代別の「はい」の割合は小学6年生が最も多く、中学3年生、18才と年齢が上がるにつれて、「はい」の割合は減少する傾向がみられます。

結果③では、世代別の「いいえ」の割合は小学6年生が最も少なく、中学3年生、18才と年齢が上がるにつれて、「いいえ」の割合は増加する傾向がみられます。

これらのことから、子どもたちの多くは香南市の観光に関して魅力を感じている一方で、結果②・③の特徴から、観光に対し魅力を感じる子どもの割合は、小学6年生以降～18才までの成長期間で徐々に減少していくものと考えられます。

したがって、小学6年生以降、18才までの世代をターゲットとして、香南市の観光の魅力を伝えることが効果的であると考えられます。

続いて、11 ページをご覧ください。

結果として、各世代・各年度に共通してR2 年度及びR5 年度、R6 年度の 18 才を除き、「わからない」の割合が最大であり、「希望する仕事が香南市でできるかどうかについて、よくわかっていない」子どもたちの割合が多いことが分かります。

なお、右半分では、問 18「希望する仕事や夢の実現のために、香南市に対して希望することがありますか」という、自由記載の設問への答えについて、問 17 で「いいえ」と回答した方の意見を A から E に分類し、年度別にグラフ化したものです。

分類は、

A：働く場所の増加（企業誘致・雇用者数の増加・職場環境等）

B：働く場所の紹介（職場体験・広報等）

C：学ぶ場所の増加（専門学校・大学・高校等）

D：夢の実現のための支援の充実（学費の支援・環境整備等）

E：その他

となっています。

こちらの結果については、一見して有意な傾向がみられないため、引き続き、地域との関連等、分析を進めていきます。

また、12 ページから 13 ページは「いいえ」と回答した方の具体的な意見と、回答者の居住地域を記載していますので、ご参考ください。

続いて、14 ページをご覧ください。

最後に、問 30、「香南市に住みたい、住み続けたい」と思いますかと、その理由についてです。

この設問は、「香南市に住みたい・住み続けたい」と、「香南市以外に住む予定がある・または住みたい」、「香南市に住みたくない」、「わからない」の 4 つの選択肢から選ぶ形になっています。

左端のグラフで年度と年代別の結果を示しています。

5 年間を通して、「香南市に住みたい・住み続けたい」と、「香南市以外に住む予定がある・または住みたい」の割合が拮抗しています。

そして、「香南市に住みたくない」が、R5 年度の小学 6 年生と中学 3 年生を除けば 10%以下となっていて、赤文字の注釈①にあるように、全年代とも、香南市に住みたくないと回答した割合は少ない傾向にあります。

続いて、中央と右のグラフは、問 30 回答の理由について A から E に分類し、年度別にグラフ化したものです。

分類は、

A：進学先・就職先が豊富（選択肢、給料等）・夢実現のため

B：都会・県外への憧れ（香南市外へのあこがれ）

C：災害（地震・津波）の関係

D：地元へ愛着があり住み慣れている、家族等がいる（住みやすい）

E：その他となっています。

真ん中のグラフをご覧ください。

赤文字の注釈①にあります、「香南市に住みたい・住み続けたい」と回答した理由は、世代・年度に関わらず「D：（生まれ育った）地元へ愛着があるから」が圧倒的に多くなっています。

一方、赤文字の注釈②のとおり、香南市以外に「住む予定がある」又は「住みたい」、と回答した理由は、各世代とも、「A：進学・就職先の豊富さ」や「B：都会・県外への憧れ」が多い傾向があります。

これについては、注釈③・④のとおり、各世代で A と B の順番に違いはありますが、「E：その他」を除けば、この二つが上位を占めています。

これらの結果を踏まえて、赤い注釈⑤のように、「都会・県外への憧れ」の対策は困難ですが、その一方で「進学・就職先の豊富さ」の理由で市外（県外）へ出ていく若者に対しては、企業誘致や香南市の産業の魅力を周知することで、一定の割合を取り返すことができるのではないのでしょうか。また、赤い注釈⑥にあるように「C：災害（地震・津波）の関係」の、近い将来起こることが想定される災害（地震・津波）が理由で市外に住みたい、という意見は非常に少ないことも良くわかります。

グラフに C を示す緑が殆どありません。

これは、津波避難タワーの設置や防災対策事業の効果と、野市町等の市街地等、人口が比較的集中しているエリアが津波浸水想定エリアから外れていること等が要因かもしれません。

なお、15～22 ページに、それぞれの回答についての具体的な意見を掲載しておりますので、ご参考ください。

簡単ではございますが、以上が「魅力ある香南市をつくるアンケート調査結果」の速報となります。

なお、こちらのアンケート結果につきましては、今後、例えば、R2 年度の小学 6 年生と R5 年度の中学 3 年生、R2 年度の中学 3 年生と R5 年度の 18 歳が同一ですので、そちらを比較して、経年による回答内容の変化について分析する等、より精度の高い分析を進め、様々な分野で活用できるようにしていきたいと考えております。

併せて資料 6 については R6 年度の回答について網羅したものになっております。

こちらは R6 年度の結果のみの結果になっております。

こちらもご参考いただけますと幸いです。

長くなりましたが、説明は以上となります。

(石筒委員長)

ありがとうございました。

アンケート結果の総括的な報告でしたけれども、皆さんのほうでご自由に、気になったところとか、質問したいところがあればお願いいたします。

若い世代の割と率直な意見が出ていたと思いますがいかがですか。

(高木委員)

アンケートを毎年取られていて、すごくいいなとは思っているんですが、質問がちょっと難しいんじゃないかなとも思っていて、問 10 や問 14 等、企業の支援や商店街の活用かと、商工会の取り組みっていうのは小学校とか中学校、高校生もわからないと思うので、もうちょっと詳しく説明してあげたほうがいいのかなっていうのと、問 13 もそうですけど、やっぱり農業林業水産業っていうものにはどういう職業があって、どういう働き方があるとか、そういうところをしっかりと伝えないと、なんか小学校だと芋掘りとか、トマトの収穫とかそういうのは体験すると思うんですけど、それが楽しいから農業いいよねっていうのと、働くっていうのは違うと思うので、もう少し具体的な方がいいのかなって思いました。あと職業とかも香南市にどういう職業があるかって言うことを、ジャンル別で選べるようにしてはどうでしょうか。

香南市にはこういうジャンルの仕事があって、こういうのだったら自分がやってみたいとか、そういうことを聞いたらいいんじゃないかなと思います。

将来の夢がある人には、どういう職業に就きたいかというのを選んでもらって、もし、アニメーションとかであれば、アニメーションの会社を誘致してくるとか、そういう今ここにいる若者がどういう職業に興味があるかについて調べて、香南市でこういう仕事ありますよっていうふうにすると、出て行ったとしても帰って来られるように、意識的に植え付けていけるんじゃないかなと思いました。

(事務局)

ありがとうございます。

おっしゃる通りで、自分が小学 6 年生の時にこれを渡されたとして、果たしてうまく回答できるのかというところもあると思います。

資料 6 の 113 ページ以降に、実際のアンケート様式がありますが、対象者には、これと一緒に、「こうなんの未来」というカラーページの冊子を添付しています。

この「こうなんの未来」は、香南市の総合戦略のこと、香南市の産業であったり、産業振興計画に紐づく説明であったりがついていて、子どもたちにも一定の理解を得られる内容になっています。

ただ、高木委員にいただきました意見のように、小中学生がそれだけで理解できるかということ、かなりハイレベルな要求をしてしまっているとも思います。

なお、「こうなんの未来」のもうひとつの目的として、保護者と一緒に見ていただいて、親子で総合戦

略について理解を深めてもらいたいという意図もありました。

アンケートは、「はい」「いいえ」等の選択肢を選ぶだけでなく、その理由を自由記載で記載できる形にしております。

今回は速報ということで、すべての回答内容について記載できておりませんが、引き続き分析を進めて、網羅された内容の報告を作成しますので、またご確認をいただき、ご意見等いただければというふうに思います。

（石丸委員）

これほどのアンケートを集計して資料にするのは大変だと思います。

綺麗にまとめているなというふうに思っております。

僕は農業をしているのですが、9ページの50%から70%は香南市の農業林業水産業に魅力を感じているということで、アンケートの中では良い返事が返ってきているのでほっとしているところでもあります。子どもたちは概ね、農業林業水産業が魅力的であると感じていると。

子どもたちには分からない部分が沢山あるかと思えますけれど、今の農業というのは昔の農業から変わってきています。

昔はきつくて汚いと言われていましたけれど、今ではきつい仕事はかなり少なくなってきていて、ハウスなんかも全部入り口のボタン1つで制御できます。

収穫についてはなかなか難しいですが、天窓換気等は自動で制御してくれますので、昔と比べると、すごく農業がやりやすくなってきておりますし、その分かなり投資、栽培品種の選定の部分が大事だと思います。

そういった中で、親元就農する後継者が非常に少なくなり、逆に非農家で県外から農業に魅力を感じて入ってくる方が非常に多いです。

そういう人は非常に馬力があって、やる気があって頑張っている。

そう考えると、やはり小学生に、たとえば夜須なんかは、エメラルドメロンの定植から収穫まで体験できる授業を農家が行って指導すれば、勉強というか学校で教えているというふうな経緯もありますし、理解が深まると思います。

やっぱり農協や生産者が学校へ出向いて行って、子どもたちに「ピーマンはこういう育てますよ」「メロンはこういうふうに育てますよ」って教えていくことが大事じゃないかな。

スーパーで売っているものを「これがピーマン、これがナス、これがメロン」とか言うのではなくて、育つ経過を段階的に見ていくのがいいのかなというふうにも思います。

また、小学4年生が田植えの体験をしておりまして、生徒ひとりひとりが鎌を持って稲を刈っています。経験としてはいいんですけど、現実にそんなことをしている農家はありません。

全部コンバインで刈っています。

鎌を使って稲を刈って収穫するという勉強も大事かもしれませんが、「今の農業はこういうふうに行っている」という体験というか、見て観察をするというのも大事じゃないかと思っております。

そういった方向である程度魅力を感じてもらえるのであれば、我々生産者が1つになって、そういう指導もしていかなければと思っております。

（北委員）

今、石丸委員から農業について出ましたので、商工業についても。

問14の「企業への支援とか、商店街の活性化等、商工業への取り組みは充実していると思いますか」に対して、「わからない」と答えた割合が非常に多かったという結果が出ていますが、現在、県がオープンファクトリーの取り組みを進めていこうとしています。

香南市でも企業が何社か集まりまして、このオープンファクトリーを積極的にやっていこうではないかという動きが出てきています。

アンケートの結果を見て、本当にその取り組みを進める必要があるなど感じました。

市内の子どもたちにやはり商工業への理解を深めてもらうための積極的な取り組みをしていかなければならないと感じました。

以上です。

(石筒委員長)

ありがとうございます。

農林水産だけでなく、商工に関しても、子どもたちにイメージがなかなか湧かないということはアンケートから見てとれましたので、やっぱり小学校、中学校、18歳と、自分たちの職業を考えるに当たる時に働くということのイメージをしっかりと伝えていくということは大事ななというふうに考えております。

(三木教育長)

今、皆さんからアンケート結果についてご意見等いただいていた中で、自分の中で「その視点は予想外だな」と強く感じたのが、先ほどの農業の体験のところの「何が目的であるか」の話の部分でした。

自分で苗を植えて自分で鎌を使って収穫することから学ばせる目的の部分と、現実の農業というものをしっかりと教える部分。

確かに泥に汚れるということから学ばせたいという部分はありますが、将来的に自分たちがやっていく仕事を体験することについてはやっぱりズレがある。

学校が何を目的にして子どもたちに体験させるかということについては、もう一度見直しといたしますか、伝え方も含めて考えてみるべきだなというふうに思いました。

「総合的な学習の時間」という言葉をご存じだと思います。

地域のことを、産業だけではないですけども、興味を持ったことについて自分で体験をしてみて、それをレポートにして発表する。

中学校になれば、職場体験学習というのは、どこの学校でも定着しています。

ただし、例として、職場体験で、「香南市の消防士を体験したから香南市が好きだ」にはならないですよ。

そうではなく、香南市を代表する仕事を体験したときに、それが「香南市が好きだ」に繋がる。

他との比較の中で、そう感じられるものになる、ということはあると思います。

ですので、学校でこれまで当たり前に行ってきたことの目的とか、意味づけ等をもう一度、見直しも含めて必要なのかなと感じました。

(北委員)

すいません、もう1件。

このアンケート等の内容ですが、子どもたちに聞いているわけで、「魅力ある香南市」ということでいうと、魅力ある教育」の有無が子どもたちにとっては一番身近なというか、毎日学校に通っているわけですから、そこが一番大切なところだというふうに思います。

このアンケートにはその面が全然出てきてなくて、学校生活や先生に対する評価と言うとおかしいんですけど、例えば「学校が楽しい」「授業が楽しい」「先生が好き」とか、「学校での体験がどうなのか」とか、そういったアンケートってどこか別で取られているのでしょうか。

(三木教育長)

各学校において学校の魅力に関するアンケートは必ず行っています。

ただ、これは各々の学校の振り返りが目的で行っているアンケートになります。

もちろん、授業がわかる、わからないを含めて、学校生活に対して子どもがどう感じているのかを読み取れるような質問項目は全部の学校にあるんですが、設問が学校によって微妙に違いますので、香南市内すべての学校の回答内容を集約して、横串で貫くことができるかどうかはちょっと難しいかもしれません。

ただ、個別の結果についてはオープンにしています。その学校区の保護者には全部を記したものがプリントになって配られていますから、それはそれで確認ができますし、材料はありますので、全体的な傾向みたいなのを計る方法を見つけられれば確認することはできると思います。

(石筒委員長)

今はこどもまんなかの政策で、非常に若い委員さんの意見が入った原案、政策が作られたと思うんですが、そこから次の保育園小学校中学校での教育の面が、香南市が充実するというか、非常に良くなる必要があると思います。

結婚出産幼児期に非常に手厚い施策をして、それが成功したとしても、その次の段階、学校での教育が「やはりちょっと香南市では」ということになると外に出ていってしまう。

子育て世代が出ていってしまわないように、連携した取り組みが必要ではないかと、今日いろいろお聞きして、そのこのところがちょっと弱いのではないかというふうに感じました。

(中道委員)

小学生、中学生、18歳と回答を集めるのは難しいかと思いますが、その中で集めていただき、そして改善ありがとうございました。

今後、いただいたアンケートをもとに、市が具体的にどう施策に落としこむか、必要があるかっていう観点でお話をさせてください。

1つは、今後施策をする上で重要なのは「自由回答の部分」になるかなというふうに思っています。

例えば14ページに夢や希望する仕事は香南市でできますかにいいえと回答した理由の具体的な意見というのが、R4年度ですけれども、左側にたくさん出ています。

非常に具体的な声が出ていて、これをもとにこうすればいいんじゃないかって言うことを想定して、そして、また新たに学生さんにも質問を出すっていうのが大事かと思いました。

ここで提案したいのは、例えば、特徴的な単語を取り出して、実はこういったことが小学生、中学生、高校生に欠けているんじゃないかということです。

例えば、R4年度の回答では、「専門学校」という単語が多く出ていますね。

私がパッと見たところで6件出ています。

いただいたPDFの資料に「専門学校」で検索を掛けると、この資料全体で20件出てきています。

これはご提案ですが、それぞれ具体的な単語で具体的な年度、かつ、それぞれの世代で、こんな具体的な単語が順位として出ていますよと。

その上で、例えば、次年度のアンケートで、「専門学校について必要と思いますか」等と聞くことによって、より具体的な施策を作っていけると思います。

まとめますと、お伝えしたいことは2点で、1個は特徴的な単語をピックアップして、それをもとに次年度のアンケートに活かす。

もう1点はそういったことも踏まえて、会話を通じてアンケートした対話を通じて、質問と回答をより精緻化し、具体的に施策に落とし込んでいくことが重要かというふうに感じました。

余談ですが、特徴を分析するということだと、例えばプログラミングを組んで、1番から20番くらいでこんな単語が多いみたいなこともできたりします。

そこまでしなくても、例えば、エクセルから目算で比較することはできると思いますので、そういうところから今後施策を行う上で活かせるのではないかとコメントさせていただきました。

以上です。

(石筒委員長)

ありがとうございました。最後に私も。

色々ありますが、資料6の5ページ。この下の棒グラフです。

この設問、R6年度ですが、「香南市に住みたい、進み続けたいと思いますか」という質問に対して、「住みたい、進み続けたい」と回答していない人の、「香南市以外に住んだ場合」という質問がされています。

この下の棒グラフ、18歳のところを見ていただきたいんですけど、もう「香南市外に住む」と答えて

いて、かつ、「香南市に戻ってくることはない」ってハッキリ言い切っているのが2割ぐらい。これはもともと回答数がそれほど多くないので、必ずしも全体を表しているわけではないですが、ポイントは「わからない」と回答した人たちで、ここをどう攻めるかですね。この「わからない」が、「できれば香南市に戻ってきたい」側に行くのか、やっぱり「もう戻って来ることはない」側に行くのか、結構大きいなと思います。それで、ここがやっぱり今回の戦略にあった中で、「やっぱり住み続けていきたい」側に来てもらうヒントになっていて、18歳は本当に正直なところ、わからないんですよ。ただ、かなりここはポイントで、やっぱり市外に出てもいずれは戻ってきたいとなるのか、わからない層が一気に変わって戻ってきたい側に持っていけるようなアピールというか施策をどうしていくのかというのは結構大きいなと感じています。

色々な自治体を見ていると、わからない層がそのまま戻ってこない側になってしまい、結局、人口が減ってきているんですけど、わからない層というのが大事で、これがどう振れるかで、若い世代が住み続けようと思えるかどうか決まるように思います。

先ほど中道委員がおっしゃられた自由記載の中に、色々なヒントがあるので、割とシビアに答えている18歳もいましたので、「以前はそうだったけど変わったよ」というのをちゃんと伝えるということも含めて、回答した時点ではそう思っていたかもしれないけど、現在は解決されているっていうところもちゃんと伝えていくことが大事だなと思いました。

アンケートについては、今後、更に分析されると思うのですが、色々なヒントがあって、若い世代の声もすごく大事で、こういう「その時わからなかったけど、やっぱり戻ってきてよかった」というふうな、これ何年後かにまた、この世代が大人世代になった時にアンケートを実施して、その時香南市に戻っている方が回答したときに、「やっぱりそうだった」となるような方向性はやっぱりこの今回の戦略とも関係しているのかなというふうに感じました。

長時間になりましたが、以上で議事は終わりになります。
最後皆さんの方で何か質問等ございますか。
よろしいでしょうか。
それではご説明ありがとうございました。
それでは一旦議事は終了いたしますので、進行事務局の方に戻いたします。

4. その他

(事務局)

本日は長時間にわたりお時間をいただきありがとうございました。
最後に、来年度の会の素案についてご連絡いたします。
資料7をご覧ください。
前回の策定委員会の中で、進捗管理についてご意見をいただきました。
このことから、来年度からの総合戦略の会の在り方についても少し変更しようと考えています。
上段に昨年度までの開催の内容を記載しています。

これまでは、年2回の開催を行っておりました。
しかし、前回の会でご意見をいただきましたことから、下段の薄い青でお示ししているように、来年度は、これまで8月に開催していた1回目の策定委員会を6月までには開催し、前年度の取り組み結果をいち早く共有させていただき、必要に応じて、検討すべきことを、8月頃に、WS等を介して協議し、12月ごろまでに、次年度に向けた意見交換を皆様と行えないかと考えています。
そのうえで、必要であれば、2月頃に、再度策定委員会を開催する流れを考えています。
このことを裏面の予定表に記載をしています。

また、先ほど思いのほか皆さんがアンケートにしっかり目を通していただいて、様々なご意見や考え方を私たちにお示しいただいたので、これを提案することがいいのかどうかというのは少し悩んでいます。一応素案ということでお伝えさせていただければと思います。

このアンケートの取り組みは、第2期の期間、5年間の取り組みということでまずは取り組んできました。

来年度からこれまでの取り組みをどうしようかなっていうふうに考えておりました。同じような形で定点でずっとアンケートをとっていく方法も1つでしょうし、例えばですが、取り組みを改めて、今年香我美中学校から依頼がありまして、総合戦略の内容や今後の香南市の人口の部分等も含めた説明を、先ほど教育長がおっしゃられた「総合学習の時間」というところにお呼びいただき、説明をさせていただいて、それをもとに中学生3年生が市長にプレゼンをするという動きがありましたので、そのような形で、どこかの学年を、ターゲットを絞って、未来戦略や香南市の人口は今後こうなってしまうかもしれないよ等、そういったところをお示しできるような形にできないかなと思っていました。

場合によって、例えば、工業分野で北委員と一緒に学校へきてくれませんかとかですね、上田委員と社協さんの事業の説明等ですね、何かそういったことをこの委員会としてできたりしたら、それはそれでまた1つ新しい動きにならないかなというふうにも思っていました。

ただし、現状はすべて確定できていません。

こういう取り組みが良いのではないかな等、ご提案につきましてもぜひ頂けたらと思っています。次の策定委員会までというわけではありませんし、メールでもよいので何かご提案というか、助けてもらえたら事務局としても嬉しいなと思っています。

まだ、しっかりと固まっていない部分なので、今後の策定委員会で協議もさせていただくことになるかもしれませんが、そのように進められないかと考えていますので、またお知恵やご協力をお願いいたします。

以上、少し長くなりましたが、来年度のスケジュールについて共有させていただきました。

なお、来年度の第1回目の参加の可否につきましては、またGoogleフォームを活用し進めて参りたいと思いますので、引き続きよろしくをお願いいたします。

それでは、閉会にあたりまして、別府副市長、よろしくお願いいたします。

5. 閉 会

(別府副市長)

今日も長時間にわたりご議論いただきましてありがとうございます。

本当に、石津委員長はじめ委員の皆様には、6月の第1回の会議から夜遅くまで熱心にご議論いただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。

本当に皆様のおかげで、未来の香南市の目指すべき姿、或いは取り組むべき柱について、一定まとめることができましたので、本当にここについては安堵しているところでございます。

ただ、今日の説明にありましたように、この香南市、香南市だけではないんですが、この人口減少といえますか、取り巻く状況というのは厳しいものがございます。

今日で最終案ができまして、しっかりとスタートラインに立てたというところでございますので、各委員の皆様にも、事業を進めていくときには協力もいただけるということでもございましたので、KPIにこだわりながらPDCAをまわしていきたいと思っています。

なかなか市役所だけではできない部分もあろうかと思っていますので、市民の皆様にもご協力をいただき、

巻き込みながら進めていきたいと思っていますので、引き続きご協力の方お願いしたいと思います。
本当にありがとうございました。

(事務局)

以上で本日の会議を終わりにさせていただきたいと思います。
ありがとうございました。